

猫もイヌも、せつない。せつない動物たちへ

眞鍋由比

ことしの1冊は『ボブという名のストリートキャット』ジェームズ・ボーエン著 辰巳出版 2013にしました。詳しくは「はと時計12月号」の裏側を見ていただけたらと思いますが、人に対しての無関心は人を殺します。ジェームズがホームレスになってから薬物中毒から更生・復活するにはカウンセラーとガールフレンドと猫のボブの三人の力が必要だった。

とはいっても自分に余裕がないときに人に優しくするのは難しいです。自分を危なくしてまで他人を助けることはないけど、できる範囲で助けるほうが、幸せな気分になりませんか？クリスマスカードをもらうのはうれしいけど、贈る方はもっとうれしい気持ちだと思っんです。

さて猫の次は、動物つながりそして訳者つながりで『せつない動物図鑑』ブルック・バーカー著 服部京子訳 ダイヤモンド社 2017 を紹介します。せつないというのは素敵な訳。原題は“Sad animal facts”。著者は司書で、幼いころから動物が好きでした。でもおうちで飼う事ができなかった。だから動物の本をかたっぱしから読みまくって、動物の「せつない事実」をたくさん知りました。司書になってから時間があるときに紙に動物の絵を描いていたら、次はこれ描いて、とリクエストされるようになり、その動物について知っていることをちょっと書き添えることにしました。それが集まったのがこの本。可愛らしい絵と動物のちょっと悲しい事実が添えられています。

クジャクのオスはモテてるフリをするために鳴く (イヤーンと)

タコには友達がない。

プラナリアはふたつに切られても死なないどころか、記憶をもったまま2匹が増える (自分以外のプラナリアを食べることで、記憶を引きつぐことも可能だとか)。

カラスはきれいな人間の顔を忘れない

シマウマはひとりで寝られない。

コウテイペンギンは家族の顔がわからない (どうやって見分けていると思う?)

さて来年の干支はイヌですが、イヌはテレビが好きでフリをする (実は人間以外の動物はテレビをきちんと見ることができません。特に犬の目は人間よりすばやい動きがよく見えるため、テレビでは動画ではなくパラパラまんがのように見えています。)

そして

オスの子イヌはメスとのけんかにわざと負ける。子イヌのオスとメスがけんかをする時、オスはどうかしてメスを勝たせようとするそうです。負けると「頑張ったじゃん」と相手をほめるそぶりまでするとか。

子イヌすら相手を思いやることができる。そんなこと、知ってもなんの得にもならないかもしれませんが、少しだけうれしくなりませんか？優しい世界もあるということが。

